

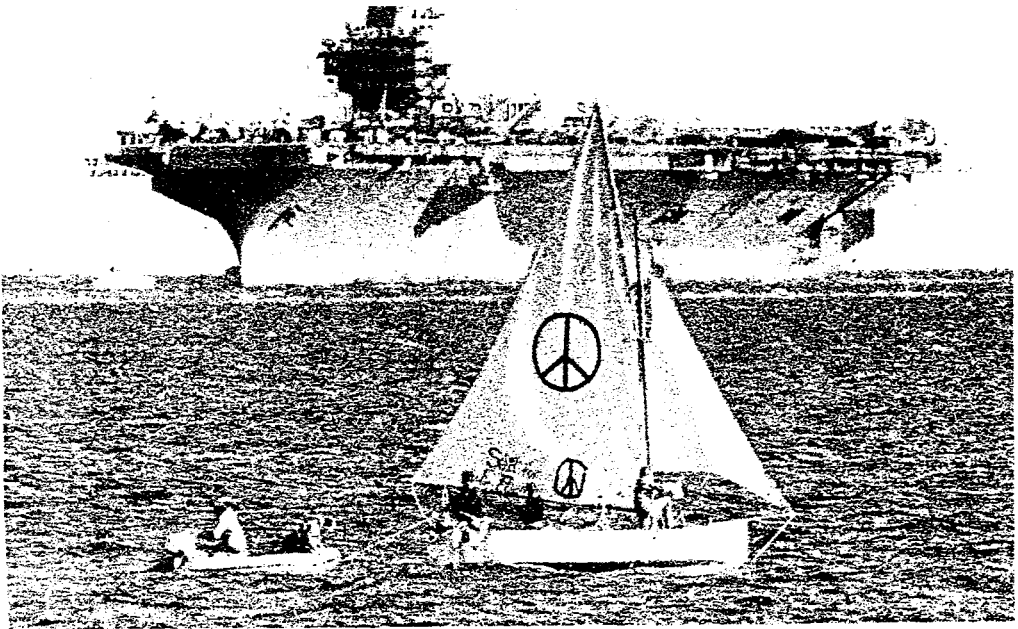
反トマホーク通信

86.11.20

NO. 13

定価 100円

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095



NO WARSHIPS・NO CRUISE MISSILES

十一月にしては随分暖かく感じる土曜日の午後、ひさしぶりに横浜の海に出た。港の小さな遊覧船ゆられながら灰色の水面に餌をついばむカモメたちをながめていると、八月二十四日の横須賀の海を思出した。小さなゴムボートで「ロングビーチ」に向かってゆらゆらと漕ぎだしたとき、あ、ここは「海」なのだという小さな発見をしたような気がして妙に嬉しくなったもんだ。

レーガン氏やナカソネ氏、そしてゴルバチョフ氏にとって海はまず「シーレーン」なのだろう。

米国の核可能艦を初めて受入れたトウショウヘイ氏はどんな「海」を目の前にしているのだろうか。

恥ずかしい程に汚し傷付けてしまった海ではある。でも、この向こうに島じまの人々が生命の糧を得る太平洋があるのだと想像することを許してほしい。かつて海によりそって、生かされていた私たちの「生」の在りかを、出来ることなら取戻すのが、私たちの「反核」でもあるのだから。(た)

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員

年間2000円

あなたも仲間！

■編集室、といっても特に決まった空間があるわけではない。渋谷のトマ食い虫社の小さな事務所の場合もあるけれども、もっと多いのは会議や集会のかたすみでのヒソヒソ話や終電まじか喫茶店の密談。あるいは深夜の長電話。そして今夜のように、夜半過ぎの四畳半、もう寝たいようなどうもきつ機に向かう一人の男、なんてこともよくあります。

■この「反トマホーク通信」も一三号。わたしたちが編集に携わるようになってちょうど一年がたちました。よく続いたもののおもいます。「反トマ通信」に限らず、「全国運動」がやってきた数々のプロジェクトはほとんどの場合、それぞれに所属するグループや地域に主な活動の場所を持った人々が力をよせあって進めてきました。私自身もその例外ではなく、神奈川・横浜での核艦船入港拒否や反基地（上瀬谷通信基地）の運動をやりながら文字通り肩で息をしつつ、この「通信」を出しています。一時は正直言って、なんてことを引受けたのだろうと後悔したものです。

が、いまではちよつと違う。私のようなタイプの非力な人間が「全国」相手のメディアの発行に参加することにもひよつとした積極的な意味があるのではないかと考えるようになったのです。おぼろげながら「編集方針」のようなものも見えてきました。

力弱く、日々の暮らしや地域での運動の中で思いなやむことのほうが多いものならでは「全国」向け通信というのがあってもよいのではないか。

■世の中にはありとあらゆる情報があふれています。「核」や「軍事」にかかわる情報もその例外ではありません。この洪水の中で、私たちは得てして受け身になりがちだ。沢山の事を知り賢くなれば賢くなるほど状況が動かしがたい、つまり「われらの出る幕なし」という感じになる。そんな経験はありませんか？ でも、この情報の洪水に現状を何とか変えたい、という意思を持ってむきあうとき、ちよつと自分の積極性を呼出して組立てなおしてみると、それはまた違った「現実」と

してあなたの前に現われる。これもよく経験することです。それぞれの地域や課題に組む人々が、意識的にあるいは無意識のうちにやっているこの「作業」を「この国の非核をほんとの物にする」という「意思」にそってやってみたらはどうだろうか、と思うのです。「反トマ通信」は、力弱きわたしたち市民がそれぞれの場所から立上がり、運動を作り手を繋ぐために必要な内外の情報を引き続き提供しつづけるでしょう。運動の「現場」からの分析をそえて。

■反核運動は単に「軍事政策に反対する」運動ではなく、「もうひとつの」新しい価値観、思想、文化を生出す営みであると考えています。その意味で、現状はやや「軍事情報偏重」であるという反省があります。どうかご批判やご意見お寄せください。そして、全国の心やさしき友たちの声よ、もつと出よう！「反トマ通信」はみなさんのものです。

(田巻一彦)



「万が一、事故が起きてからでは取り返しがつかない」と核兵器や原潜の危険性を警告するブッシュさん

核搭載寄港は常識

事故対策は何も無い

元原潜艦長は語る

●「ラロック証言」で知られるジーン・ラロック元少将が主宰する国防情報センターの副所長でミサイル原潜艦長のキャリアを持つジェームス・T・ブッシュ元海軍大佐が国際平和年神奈川県民実行委員会の招きで来日し、神奈川県内各地で講演を行なった。核持込みや核事故についての生々しい証言である。十一月十一日、川崎市宮前文化センターで行われた講演会を取材した。(編集部)

ブッシュ氏は退役軍人が多く所属する国防情報センターの事情から、機密事項に属する事は答えられない場合もあると断った上で約百人の聴衆を前に言葉を選びながら、しかし、終止率直で誠実な態度をくずさずに自らの経歴から語りはじめた。

氏は、一九五二年から二六年間海軍に在籍、駆逐艦をふりだしに通常型潜水艦、原潜に乗務、一九七〇年に陸上勤務となった。艦上勤務の最後の三年間は、大西洋配備のポラリス型ミサイル原潜の艦長として「核発射ボタンを押す」立場にあった。

しかし、陸上勤務を機に大学で歴史と人間を学び、それまで抱いていた核の過剰配備への疑問、核の密蔵性、非民主性に確信を持ち、退役。国防情報センターには八二年に参加した。

以下、講演は同センターがメインテーマに据えているトマホークを中心に、会場からの質問にも答えながら進められた。その要旨は次の通りである。

□万が一の事故対策は何も無い

トマホーク配備反対の理由は三つある。第一に軍事的価値にかかわることだ。すでに、核は過剰配備の状態になっており、もうこれ以上いらないということだ。第二に、核軍縮の観点からみて余りに問題が多い。トマホークは核・非核の外見上の区別がつけられず検証が不可能のため、軍備管理交渉の終末を意味する。第三に港の安全の問題だ。軍の正式データでもトマホークが核爆発を伴わない事故を起こしてアルトニウムを飛散させた場合、風下二八マイル、幅二・五マイルの範囲は除染不可能な核汚染をうける。

軍当局は核兵器の取扱以上の安全には細心の注意を払っているが、万が一の事故がたとえはニューヨークや東京湾でおこった場合の対策は何もない。

だから、核ミサイル搭載艦の母港は大都市には置かれないのが通例だった。たとえば私が艦長を勤めていたミサイル原潜の母港は表向きはチャールストンであったが、実際には

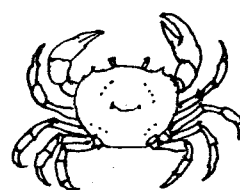
はるか人里はなれたところだった。その意味で戦艦アイオワのニューヨーク母港化は安全対策についての重大な変更がなされた事を示しているのではない。

「否定も肯定もしない」

政策は市民向け

米国の政策が問題をさらに複雑化している「否定も肯定もしない」政策の根拠は公式には相手困惑させて抑止力を強めるためと説明しているが、これはデタラメだ。核の配備状況はソ連にすべて筒抜けである。この政策の本当の意図は入港先の市民に情報を与えなためだ。正しい知識の上に艦船を受入れるかどうかを判断することを許さない、ということだ。日本国民はなぜ米国に問いたださないのか。

核兵器搭載可能な艦船が港に入るまえに、核兵器を降ろしたことは一度もない。これはラロック氏と私たちがつぶさに検討した結論だ。



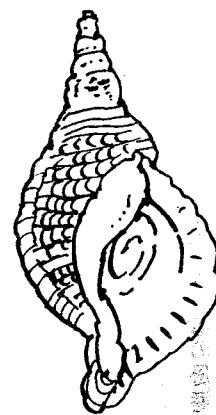
トマホークの配備状況は現在約二五〇発。対地攻撃用核ミサイルが主体で戦艦のすべてと攻撃型原潜、水上艦に実戦配備されている。一方、対地攻撃用通常弾頭型のものはまだ

「全ての「核能力艦」は

実際に核を積んでいる

テストが終わっていない。カナダで二回実験したのみだ。ソ連は積雪のため地形が変わりやすく精度上の問題が大きい。対艦攻撃用の物は良くわからない。ただし、これは現場からは極めて不評を買っている。経験的にいって、目標との距離が五十キロを越えると、それが軍艦なのか民間船なのか、敵か味方かを判別するのは不可能だ。これに対して対艦トマホークの射程距離は長すぎる。

(核トマホーク能力を持っている艦船は必ず核を積んでいるのか?との質問に答えて)核能力については三つの段階がある。まずNUCLEAR CAPABLE 核能力を有する(コントロール・システムを持つ)。第二段階としてNUCLEAR CERTIFIED 検定(テスト)済み。そしてNUCLEAR ARMED 核を実際に載せている。しかしこの段階分けはあくまでも概念的なものであって実際には核能力を持った艦船が、たとえば太平洋や日本にやって来るとき



に素手のままのはずはない、というのが国防情報センターの統一見解である。

水上艦船ならば外部から確認できるが原潜ではそれは不可能。したがってソ連は、当然すべての攻撃型原潜に核トマホークを積んでいるとみなして対応するだろう。

「横須賀への原潜寄港増加の理由

軍事戦略上、戦略ミサイルを積んだ原潜が母港以外に寄港する必然性はない。それでは何故、横須賀への寄港が増加しているのかについて一つ指摘しておきたいことがある。

現在、米国はトライデント・ミサイル原潜を八隻持っているが、その全てが太平洋配備だ。ソ連は、攻撃型原潜を使ってそれらを追跡、情報収集する活動を活発化している。それに対抗して米国の攻撃型原潜の活動も活発になっていることであらわれた。(了)

新分野の闘いが始まった

あいば野日米共同演習と京都市非核宣言

日米軍事演習の公開質問状に86% 京都市

個別回答必要ない

京都市

滋賀県あいば野で十一月下旬から行われようとしている陸上自衛隊と米軍海兵隊との合同演習に反対する運動の中で、トマホーク阻止京都連絡会の仲間が新しい分野の運動を切り拓いた。

一、京都市は核兵器および核兵器搭載の疑いのあるものの、京都市域への通過、搬入、飛来、貯蔵、滞留を拒否する。

つまり、京都市は核兵器搭載の疑いがあるだけでそれを拒否するという、厳しい非核条項を自らに課しているのである。そして、いま、日米共同演習の中で、それが踏みにつられようとしている。京都トマ連では市長に公開質問状を發した。

この運動がどれだけの大衆的な広がりを生むか、まだ未知数である。しかし、これは現在、アメリカの核戦略にそって急進展してい

る日本の軍事化と、非核自治体が増え続けている状況の下で、ますます広がりつつある矛盾を突く運動に新分野をひらく可能性をはらんでいる。その意義は三つある。

①核疑惑艦船の入港に反対する運動が港を持つ地域を中心に行われているが、それ以外の地域において非核の実質化を求める運動の具体例を示した。

②日米共同軍事演習が常態化しているが、それに非核自治体の立場から反対をする具体的な例を示した。

③非核自治体宣言の再点検を迫っている。

(梅林宏道)

滋賀県で今月下旬予定されている日米共同演習に反対する京都市の公開質問状を出した。これに対し、京都市は七月「個々の市民団体に個別に回答する必要はない」と回答を拒否することを決めた。

正副市長に対し「演習場へ行くために京都市内を通過する米軍が、核兵器を持ち込む可能性がある。これは京都市の非核性がある。これは京都市の非核性がある。これは京都市の非核性がある。」と回答を拒否した。

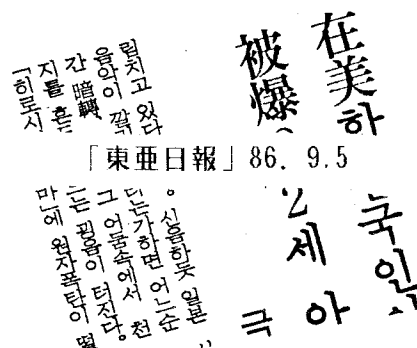
二週間、滋賀県高野郡の栗野(あいば)演習場で共同演習を取り扱う可能性もある。しかし

米海兵隊は大阪湾に上陸、名神高速を利用して京都市内を通過するはず」と前置き。

そのうえでこれは、京都市の非核平和都市宣言二項「核兵器及び核兵器搭載の疑いのあるものの京都市域への通過、搬入、飛来、貯蔵、滞留を拒否する」に触れるが、どう思うか?演習の中止を申し入れるつもりはないか?中止を申し入れないなら、米海兵隊の輸送ルート(正確に把握するために問い合わせしたか)など六項目について質問している。

京都市総務局調査課は「質問状に対応しない」としたうえで、「国は非核三原則を明確にしており、核兵器の通過はありえない」として答えた。

「反核演劇」初の国内上演

在米韓国人が書いた「ヒバクシャ」
被爆二世の悲痛な物語描く

提供：日韓連帯神奈川民衆会議

「核問題」がタブーとされている韓国で、初の反核演劇「ヒバクシャ」が上演され成功をおさめた。

韓国人被爆者をテーマとしたこの上演が、当局からの激しい干渉と弾圧を受け、曲折の末かちとられたことはこの記事からも充分うかがうことができる。

ここにあるのは、誰よりも私たち日本人にとって決して「清算」されていない、そしてはならない「戦後」だ。そして現在、日韓民衆はひとつの「核状況」を共有し、その重圧は韓国民衆により重く、暗くのしかかっている。

日本とは比べものにならない規制と弾圧の下で、かの国の人々が「核」をどのようにとらえ、向き合っているのか。そのことに想いをはせることが、私たちの「反核」であることをかたときも忘れたくはない。

(編集部)

劇場に入ると、四つの壁はどれもみな恐ろしい絵で覆われている。布に描かれた大きな絵のなかで、悲惨な姿をした原爆の被害者たちが悶え苦しんでいる。うめくような日本の音楽が流れてくると、ある瞬間に舞台は暗転し、そのくらやみのなかから天地をゆるがす轟音がひびきわたる。広島に原子爆弾が投下されたのである。

九月四日午後四時半、ソウル東崇洞バタヤン小劇場。核をテーマにした「原爆の演劇」、

「ヒバクシャ」(演出・巫世榮)のオープニングの部分である。先月九日に被爆二世らが集まり、反戦反核をテーマに二十分程の寸劇を公演したことがあったが、本格的な反核演劇としては今回が国内初のものである。

在米韓国人の作家である洪可異氏が英語で書いた「ヒバクシャ」は、英、米、独、日本では過去に公演されているが、当事国であるわが国では、さまざまな微妙な問題から、公演できなかった作品である。かつては国立劇場でも公演の動きがあった。しかし、「国立団体があえて日本を刺激する必要はない」とか「国策と関係のある核問題を国立団体がとりあげる必要があるのか」などの理由からやめさせられたことがあった。

国立劇場公演中止以後、一年ぶりに民間劇団の「テアトル巫」によりこの作品が上演されることは、原爆投下から四一年が過ぎた今日未だに解決をみない我々の悲痛な問題をはじめて本格的な舞台を通じて照明をあててみるという点から、関心をもつ人々の注目をあつめている。わが国には約一万三千の被爆者が存在することが想い起こされる。

物語は、広島で被爆した韓国人の少女がその成長とともに悲惨な生涯を送るというものである。主人公・ヨンチュは被爆当時八才の少女であった。はじめは体も健康で何の異常もみられなかったのだが、祖国へ渡り韓国人

と結婚、その後、異状なことが起こる。ふたりの間に生まれた子供には奇形があったのだ。夫から離婚を告げられた彼女は原爆病院で治療を受けるため、日本へ密航する。だが発見され彼女はつかまってしまう。そこへひとりのアメリカ人神父があらわれ、彼の助けによって病院へ行ったものの、病院は何も異状はないとウソの診断を下す。彼女は病院を脱び出し日本の歓楽街を転々とするのだが、かつて彼女を助けたアメリカ人神父と再会、ふたりは結婚する。しかし、神父との間に生まれた子どもも奇形があった。神父は絶望し彼女から去ってゆく。ヨンチュは生活のために麻薬密売に手を染め糊口をしのぐのだが、発覚しつかまる。彼女は心の底から世を呪い、そして自ら命を断ってしまう。

劇中では、アメリカや日本を罵るセリフや韓日条約締結の際、この問題を投げ棄てた韓国政府を非難するセリフが数多く出てくる。「あなたたちはわかるか」「過去も今も未来にもヒバクシャは存在し続けている」最後の部分のこのセリフなどは、被爆者たちの苦痛とこの問題が今もって解決されていない事実を痛烈に伝えている。

舞台は劇場のまんなかに長方形につくられ、舞台のまわりは全て客席という特異な形をとっている。俳優たちは舞台のまわりに座って

声明

新憲法草案批准を！

八六・一〇・三〇 非核フィリピン連合口

(タイトルは編集部)

おり、自分の出番になると何の不自然さも感じさせずに舞台にあらわれ、退場する。だから、観客は自分があたかもその場にいあわせているような雰囲気を感じるのである。

話の大部分をナレーションが占めるため、若干、散漫な感じもするが、場面転換がめま

ぐるしく劇的な緊迫感も伝わってくる。

演出の巫氏は、公演倫理委員会によって削除されたセリフの使用と、原作をあまりにも大きく変えているという原作者・洪氏の評価の、両面からの圧力を受けている。(訳Y・〇)

大詰めをむかえているフィリピン新憲法草案にたいする「非核フィリピン連合」の見解を述べた声明である。十月三十日の記者会見で発表された。同連合の事務局長エールモ・マナバート氏の十月初旬段階の見解は、会員の方々に「キー・コンタクト」No. 8で紹介したとおり結論として「反人民的」というものであった。この声明では一転して積極的側面を評価し、批准を呼掛けるものとなっている。この間の議論の経過を語るものとしてマナバート氏による詳しい論文も届けられている。近々ならこの形でフルテキストを紹介したい。

オラリア人民議長暗殺、それに対する全人民的な抗議の声の高まりなど、フィリピン情勢は引き続き激しい展開を見せている。今後注目しつづけてよう。

われわれはわが連合の会員、友人、支持者たち、そして全てのフィリピン人民に対して、この草案の批准を確かなものにするために夫々の役割を果たすよう勧告し、要請する。

われわれもまたこの草案をめぐる討論にわれわれの教習をよせる用意がある。

開かれた「私」の実感から…

遠山法子（生活クラブ生協組合員）

昨年、生活クラブ神奈川の反核平和委員として、オーストラリアを訪れた経緯もあり、今年はこちらでジョーさんを受入れることになりました。そのために「86反核平和アクション」という七名の組合員で構成した実行委員会を作り、ジョーさんの三ヶ月に及ぶ滞在スケジュールの調整をしてきました。

日本全国飛回つての超過密スケジュール。当初、電車の中で居眠りをしている日本人が奇妙に見えていた彼女も、終わりのころにはすっかり仲間入りし、「日本人になったね」と冗談を言合ったものです。

ジョーさんとの出会いで強烈に教えられたのは「開かれた個人（私）」。「相手と私は対等」であることでした。私が一番初めにそのことを感じたのは、ジョーさんが日本に着いた日です。

横浜まで車で迎えに来た、私のだんなと友人。二人とも耳が不自由なので、会話は手話。英語は全くわからないにもかかわらず、「

ビール飲みますか？」にはじまり、ジョーさんも「道路が狭いのに運転が上手ね」というような内容のことまで互いに身振りを駆使して会話がはずんでいるのです。私たちがいっぺんにジョーさんが好きになってしまったのは言うまでもありません。（ちなみに、日本の男性、とりわけ運動をしている男性が彼等と出会ったとき、直接会話するのをちゅうちよすることが多く、いまだに彼等は運動仲間というて堅くて息がつまるといって敬遠してしまいます）。



ジョー・ハイターさんのこと

●オーストラリアの反核団体PND（核軍縮のための人々）で三年前から西部地方調整役をつとめる。26才。独身。週のうち三日は外科病院で看護婦として働き、残りの時間をボランティアとして活動にあてている。●この六月来日し横浜市内を拠点に各地の草の根反核グループと交流し十月初めに帰国。●ニュージャージ入港時には佐世保にかけつけ抗議船で熱弁をふるった。

個と個の実感からの運動。ジョーさんの自分に立脚したところから発想し、社会とのつながりを（政治も）認識している有り様は、「動員」という危険な数の戦いを厳しく指摘していましたし、逆に政治にいつでも自分の声を出していく気楽さも持ちあわせていました。

中曾根さんに会わなかったのが残念と言っていました（私がニュージージラランドに行った時、ロンギさんに会っていけばよいのと言われたのを思出し）政治と国民の距離のお国がらを見た思いでした。いろいろエピソードはあるのですが、どれをとっても、私たちの感性にじっくり伝わってくるものでした。ですからジョーさんが帰国したあとも、七人のメンバーが意気盛んに反核に取組んでいるのも、彼女の置き土産なのです。

各地から

日米統合演習に
抗議の声上がる

【北海道】 十月二十六日、翌日からの日米三軍統合実動演習をひかえて、千歳市で全道労協主催の抗議集会。五千人の結集で「北海道を核の戦場にするな」の声をあげる。反核北海道行動の仲間たちは、それに先だってアメリカ総領事館と陸上自衛隊北部方面總監部に抗議の申し入れ。總監部は申し入れの受け取りを拒否。

【東京】 「全国運動」が十月九日、日米三軍統合実動演習取りやめの申し入れを防衛庁に対して行う。十二月十四日には「八六年核の総決算」集会をおこなう。来年一月末から二月上旬にかけて開かれる「太平洋運動」の会議（東京）に合わせて、二月一日には「反核国際共同シンポジウム」の共催も準備している。

【朝霞（埼玉）】 十月二十六日、朝霞で、浦和市民連合、戦争への道を許さない女たちの会・埼玉、埼玉県反戦、東京北部実行委

（東水芳、武蔵大自治会など）が自衛隊観閲式パレードに反対する集会とデモ。反トマ首都圏運動も参加。二百人が集まる。集会では梅林さんが日米統合演習に対する抗議行動を訴える。当日、基地と闘う朝霞市民の会などの住民団体も抗議デモを約三十人で行う。

【百里（茨城）】 「兵士と労働者」編集委員会は、十月十九日、サイドワインダー”誤発射”事件のあった航空自衛隊百里基地の調査活動を行う。草に埋もれていた「自衛隊は憲法違反です」という百里基地反対同盟の立て看板を、草かりを行ってよく見えるようにする。

【横須賀】 十月二十六日、毎月の定例デモで海自横須賀地方總監部と米海軍横須賀基地司令部に統合演習中止の申し入れ。

十一月三日、改修工事中の空母ミッドウェーがエンジンテストなどのため七カ月ぶりに

出港した。

【横浜】 上瀬谷通信基地増強の動き。確認されただけで四カ所で大規模な土木工事。衛星通信アンテナの増設も。神奈川県渉外部によれば土木工事はすべて「思いやり予算」によるもの。昨年夏に暴露されその後先送りになったと伝えられた「艦隊作戦統制センター」計画が事実上着手されたのではと疑われる。ウラ付け調査を急ぎ、地域へ大々的な情宣を、と現地の「上瀬谷基地はいらないウドの会」。

【厚木】 ミッドウェーの新艦載機F/A-18ホーネットが今月中に飛来と米軍当局（十一月十四日に飛来）。「厚木爆音防止期成同盟」は十一月十日、防衛施設庁に配備の中止や、着艦訓練の制限などを申し入れた。

【愛知】 十一月十七日、日米統合演習に反対する学習会を行い、あいち野での日米共同演習に抗議する行動に京都と連携しながら取り組む。十一月二十日には守山市の第十師団司令部に抗議。二十二、二十三日と宣伝活動。

【京都】 十月三十一日、「関西でただひとつの反戦集会」をトマホーク阻止京都連絡会の

仲間が実現。約三十人が参加。

十一月十一日、「陸自・海兵隊共同演習を許すな！ あいば野を米軍基地にさせないための一・一講演集会」を青木日出雄さんを講師に招いて、三十人の人が大阪などからも参加。中でも演習反対の署名をしてくれた人や女性のグループ「ひとこととでなく政治を考える会」の人が初めて集会に参加してくれたのが眼を引く。

十一月二日、仲間二人があいば野演習場の「立入禁止区域」に果敢に「潜入」。演習場の現場に米海兵隊を迎えるためと思われる英文の標識が林立していることを発見。

十月二十九日、神戸の米総領事館に仲間三名が日米統合演習反対を申し入れ。対応に出た館の係員から英文化して本国へ送る旨の確認を引出す。

「呉」 十月二十三日、日米統合実動演習

(キーン・エッジ八六)の中止を要請する共同声明が上がる。今年の「六・二九アクション・イン・呉」や中国地方の反基地交流などで交流を深めてきた広島、岡山などの十二団体の連名。岩国、呉、広島、日本原など、中国地方の陸海空の各自衛隊の反基地運動を進めてきた団体が一堂に名を連ねるのはこれまでになかったこと。自衛隊の「統合実動化に

対応してこれからも足並みを揃えていく決意が確認された。アメ大、ヨコスカの他、中国地方の全基地、自衛隊機関十八箇所に送付された。十月十日から末日まで、呉基地監視活動。十月二十二日に佐世保所属の第二護衛隊群・護衛艦「やまゆき」「はつゆき」の呉出港(同艦は二十三日に横須賀に入港後、キーン・エッジ参加のため、北へ進路をとる)を確認。

十一月一日、「日米韓軍事同盟を撃つ！

呉集会」がトマホークの配備を許すな！呉市民の会主催で四十数名参加し行われた。山川曉夫さんの講演をうけた後、中曽根首相、レーガン大統領と栗原防衛庁長官あてに「あいば野」での共同演習実施に反対する特別決議を採択。

この他呉では、さる十月十日、横須賀で行われたピース・フェスティバル八六に出展する絵を描くため「写生大会」を実施。自衛艦のみえる丘に親子連れ三十人で登って皆で楽しく絵を描いた。それまで集会などに来たらなかった人達も何名か参加して和気あいあい、「またやろうよ」の声もでる。みなさんの地域でもいかが。連絡先・呉市民の会(〇八二三・二一・二四一四 呉YWCA 呉付、草刈)

「広島」 十月二十七日、二十八日、ストッブ・ザ・戦争への道・広島講座」など八団体が連名で、広島市(非核都市宣言はとうに上がっている)に要請書を提出。トマホーク搭載艦メリルの入港した事態を踏まえ、今後このような艦が入港しようとした場合、核の有无が確認できなければ、寄港を拒否するよう要請。

「福岡」 十月二十六日、福岡共同行動の仲間が陸上自衛隊第四師団司令部のある春日原基地の「基地祭」に抗議行動。国鉄南福岡駅前でピラマキを行った後、基地周辺で宣伝カーをつかった訴え。事故の問題や日米統合演習などについて一般隊員にもよびかける。

「熊本」 十一月二日、三日、人吉市でえびのVLF(極低周波)潜水艦通信基地建設に反対する会議を行う。地元の住民の他、熊本、福岡からも参加し、来年の工事着工にむけて全九州的な運動の拡大を確認。スライドの作製、非核市民団体へのよびかけなどを行うことを決めた。

